



# 食農コープ教育 プログラム FLASH

食農コープ教育プログラムを通じて、これまでに農業農村に関連した地域の課題解決に取り組んできました。



本プログラムでは、生産者・生活者の問題を発見し、学部教育で培ってきた専門性と結びつけ、解決に取り組むことのできる人材の育成を目指し、現場を教材とした演習や講義を実施します。なお、本プログラムは、神戸大学 ESD サブコースの単位に対応しています（詳細は神戸大学 ESD コース HP を参照）。

**食と農の現場を支える実践力**  
ESD プラクティショナー認定（※裏面参照）  
**卒業研究／進学・就職**

## 農村ボランティア



農家との交流の機会を提供している農村ボランティアバンク KOBÉ「ノラバ」の仕組みを利用して、人手を要する農家で農作業のお手伝いしながら、農業に関する知識を身につけたり、交流を深めたりすることができます。「ノラバ」が案内する作業内容やイベント情報を受け、活動条件が合えば参加となります。

支える  
仕組みを  
学ぶ

## 兵庫県 農業環境論

兵庫県の農林水産施策に関わる方々から、現状の課題について直接話をうかがい、現在実施されている農林水産施策や農林水産業の現状を理解し、得た知識をもとにワークショップで意見交換を行います。  
①JAや兵庫県農林水産関係者等による兵庫県農林漁業の実態と施策に関する講義  
②班別でワークショップを実施し、具体的な施策を提案します。

2年次後期・選択2単位（ESD演習Ⅰに相当）

## 自主活動／学生団体活動

それぞれの関心に応じて、個人または団体として、実践活動を企画・実施します。地域連携センターでは、地域の方々と連携したさまざまな実践活動を支援します。



経験と知識を融合させよう

## 学生活動団体



プログラム外においても学生が地域で活動をおこなうグループを結成しています。継続的に地域に関わり、地域のさまざまな課題にチャレンジしています。現在、ささやまファン倶楽部、にしき恋、サンセット12の3つの団体が活発に活動しています。

現場の  
課題に  
挑戦

## 実践農学

持続可能な農業農村の発展に関する現場での調査やプロジェクトへ実際に参加し、農村地域の産業・環境・社会を理解する基礎的な技術や能力、および施策立案や調整能力を身につけます。  
①農村地域における現状課題を調査・分析し、  
②課題解決に寄与する事業や施策の企画立案プロセスを理解することを目指します。

2年次（3年次）通年・選択2単位（ESD演習Ⅱに相当）

専門知識を増やしながら  
実践経験を重ねよう

農家に  
師事する

## 実践農学入門

県内の農村地域で地元農家に師事し、農作物の栽培や、むら仕事を体験するなかで、農業や農村生活に関する理解を深めます。また、校内学習においては、体験から得た知識をもとに、地域の課題解決へ向けた提案を出すためのワークショップを行います。実践農学入門では、①校内学習（3回）、②現地実習（6回）、③農村体験活動やボランティア活動への参加（1回）を行う予定です。

1年次通年・選択2単位（ESD基礎に相当）

地域をつくる活動や仕事を  
知ろう・やってみよう

## 専門科目

Cooperative Education on Food and Agriculture  
地域とともに育む実践力

現場に行ってみよう